

福山駅前広場協議会 分科会（広場活用連携） 開催概要

2026年（令和8年）1月28日

福山市 企画財政局 福山駅周辺再生推進部 福山駅周辺再生推進課

○開催の目的

2つの案を練り上げていく上で、広場空間の活用・連携という観点で、駅前広場の活用の可能性が高い周辺事業者の意見を聞き、駅前広場協議会での議論に生かしていく。

○日時

第1回 2026年（令和8年）1月13日（火）14時00分～16時00分

第2回 2026年（令和8年）1月21日（水）13時30分～15時30分

○議論の視点

- ・どのように駅周辺全体を魅力的にしていくか
- ・各エリアをつなぐ「ハブ」となる広場空間を介して周辺との回遊性をどのように生み出していくか
- ・上記を実現するために、駅前広場をどのように活用していくか
(日常時・非日常時とも)



○各回の議論の内容

・第1回

意見交換1：『たたき台（2つの案）への意見出し』

2つのたたき台の違いを踏まえ、「周辺とのつながり」「使いやすさ・過ごしやすさ」「福山らしさ」などの視点で意見出し

意見交換2：『駅周辺と一体的につながる駅前広場・駅前大通りの使い方』

- ①日常的に広場がどのように（誰が、どんなふうに）使われると良いか
- ②駅周辺を魅力的にしていくために、広場を活用して取り組んでみたいこと、アイデア（日常／非日常）

・第2回

意見交換1：『駅前広場を活用していくために必要な施設は？』

意見交換2：『駅前広場・大通りの整備効果を、どうしたら自分たちのエリアとの相乗効果につなげていけるか』

- ①自分でできること
- ②他の団体等と連携してできること

○2つのたたき台における広場空間の比較

項目	たたき台①	たたき台②
広場の規模	約7,500m ² （駅前広場） 約1,300m ² （アイネスフクヤマ前）	約5,600m ² （駅前広場） 約1,300m ² （アイネスフクヤマ前）

(参考)

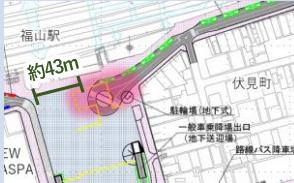
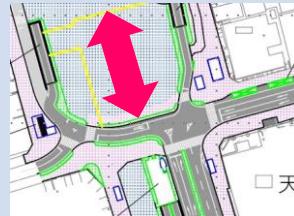
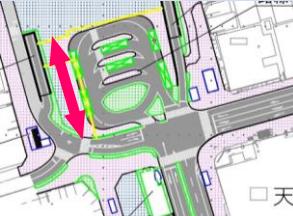
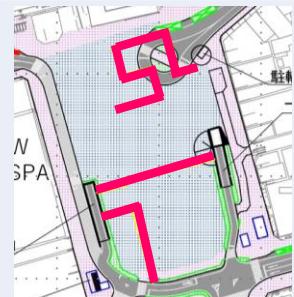
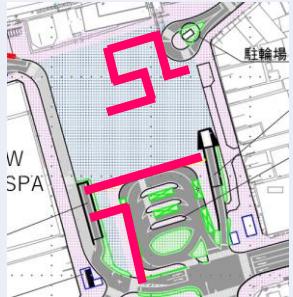
Aerial photograph showing the area around Fukuyama Station. A yellow rectangular box highlights the plaza area. The text "福山駅" is labeled above the station building. The text "約14,000m²" is written at the bottom right of the highlighted area.

福山駅南口駅前広場

Aerial photograph showing the area around Fukuyama City Central Park. Two overlapping dashed boxes indicate the comparison areas: a larger red one and a smaller yellow one nested inside it. The text "セイムスケールマップ(中央公園)" is at the top right. Labels include "霞町一丁目", "中央公園", "②約5,600m²", "①約7,500m²", "約14,000m²", "まなび", and "中央図書館".

福山市中央公園

○2つのたたき台における広場空間の比較

項目	たたき台①	たたき台②
駅舎とのつながり	路線バスの転回場が大きく張り出している 	中小型送迎バスの転回場が張り出している 
東西の動線	<u>伏見町エリアとのつながり</u> 路線バスの転回場が大きく張り出している <u>三之丸町エリアとのつながり</u> 広場とエリアとの間に道路が通る 	<u>伏見町エリアとのつながり</u> 中小型送迎バスの転回場が張り出している <u>三之丸町エリアとのつながり</u> 同左 
南北の動線	南北の行き来がしやすい 	南北の行き来の動線が狭い 
遺構の表現	舟入遺構や二重櫓の表現ができない 外堀遺構（外側）の表現ができる 	舟入遺構や二重櫓の表現ができる 外堀遺構（外側）の表現ができない 

福山駅前広場協議会 分科会（広場活用連携）

- 出席者
- ・専門家 清水義次、西村浩、三谷繭子
- ・オブザーバー 伏見町内会、福山駅前商店会、NEWCASPA会、福山駅前開発(株)、山陽SC開発(株)、(株)天満屋福山店、福山市商店街振興組合連合会、福山商工会議所、ヒロバラボ参加者（駅周辺事業者）

1. 2つのたたき台についての意見

●周辺とのつながり

- ・たたき台①：東西や南方面へ歩いて往来がしやすそう。
バスのロータリーが大きすぎる。
- ・たたき台②：東西の往来は現状より改善されるが、南にバス乗降場が残ることで、南方面の分断感が気になる。
- ・両案：広場を生かすためにはアイネスやNEWCASPA、三之丸町、伏見町との連携が必要。伏見町は広場とつながるが、三之丸町は道路があり、広場とつながらない。広場の活用と合わせて国道2号までの活用を図って、中央公園や霞町の商店街を連絡させたい。など

●使いやすさ・過ごしやすさ

- ・たたき台①：広場が広い方が様々な使い方ができて良い。
広場の面積が広すぎる。
- ・たたき台②：バス乗降場のすぐ隣に広場があるため、
安全に配慮が必要。
- ・両案：広場に屋根が必要。
どこに何があるか分かる案内が必要。など

●福山らしさ

- ・両案：福山城の遺構を見せる工夫をした方が良い。
福山の都市の魅力を表現したデザインが良い。

●その他

- ・人の交流を促す、にぎわいを創出、駅周辺を活性化するために
広場は必要。
- ・観光バスの位置はもう少し駅に近い方がよい。など

2. 駅前広場の活用や周辺エリアとの相乗効果についての意見

●外から来る人（ビジネス、観光、宿泊客）

- ・休憩、飲食、仕事、待ち合わせ、情報を得るなど。
- ・歴史を語れる人を増やしたり、持続的に稼げる魅力的な店舗を作ったりすることで、エリア全体を目的地としていく。

●地元の人（学生、ファミリー、就業者）

- ・カフェなどでくつろぐ場所の提供。
- ・駅周辺のお店MAPの作成・配布、まちの案内コンシェルジュ、グリースロなどの移動手段の活用により、面的な広がりを作る。

●その他

- ・駅前広場という玄関口が変わることをきっかけに、周辺をどう活性化していくか考えることが大事。
- ・情報発信を継続するには、仕組化することが不可欠。
- ・今回をキックオフにして、駅周辺が連携していくように。

3. まとめ

- ・2つのたたき台については、周辺との連携や遺構を見せる工夫など、両案共通の意見が多く出された。
- ・両案ともに、日常的な活用とイベントなど非日常的な活用が同時に可能な広さになっている。
- ・引き続き、市民や事業者と一緒に、活用方法や持続的な運営体制を検討していく必要がある。

→ 今の駅前広場を変えていくことで、回遊性の向上やにぎわいの創出など、様々な効果が期待できる。

たたき台①②ともに周辺の事業者と連携して空間や仕組みを作っていくことで、魅力とにぎわいを生み出せる広場空間にしていく。